

市政50周年記念
相模原麻溝公園競技場

メインスタンド 竣工

「相模の大風」がモチーフ

神奈川県相模原市の市政50周年を記念して整備が進められてきた「相模原麻溝公園競技場メインスタンド」がこのほど竣工、市民の憩いの場として親しまれている麻溝地区に新たなスポーツ施設が誕生した。スタンド上部を覆う膜構造の屋根は「相模の大風」がモチーフ。大空に舞い上がるような開放的イメージで観客とアスリートを迎えてくれる。設計は相模原市設計協同組合、建築施工は藤木工務店・谷津建設JVが担当、無事故・無災害で工期内に竣工させた。

設計—相模原市設計協同組合
建築施工—藤木工務店・谷津建設JV

参加と感動のスポーツの森

相模原市は、市民が気軽に利用できる健康づくり・体力づくりの拠点として、また、陸上競技を始めサッカー、ラグビー等の公式試合を行うことができる本格的な競技場を目指して「参加と感動のスポーツの森」を基本コンセプトに、相模原麻溝公園競技場の整備を進めてまいりました。

この競技場の整備は、従来の相模原麻溝公園を15.5倍拡大することを決めた1992年の都市計画決定に始まり、約15年の歳月を経て2007年4月、日本陸上競技連盟の第3種公



相模原市長
加山 俊夫

認陸上競技場としてオープンいたしました。トラックは1周400m、9レーンの全天候型のウレタン舗装、フィールドはサッカーやラグビーの公式試合に対応する長さ106m、幅69mの天然

芝の仕様になっております。このほど観客席数2,781席のメインスタンドが完成し、昨年度完成の芝生スタンドと併せ、約1万1,800人を収容できる第2種公認競技場として、09年4月、新たにスタートいたします。

今後は電光掲示板とバックスタンドの設置を予定しており、最終的には1万5,000人を収容できる競技場として完成いたします。また、その後も第2種競技場等を順次配置することなどによって、相模原市民70万人のスポーツ拠点として、また、広域的な競技施設として多くの方に利用いただけるように整備を進めてまいります。



フィールドからのスタンド全景

本建物は市政50周年を迎え、市民のスポーツ振興の拠点となるべき麻溝公園第一競技場の管理諸室および観客席の一部が主要用途になります。

設計に当たり、競技場の主役は競技者であり、それを観に来る人々であるとの認識のもとに1階の階高を極力抑えることで、スタンドの先端フィールドをできるだけ近づけ一体感をもたせようとする。また、観客席からの視線に配慮しながら安全を考慮した勾配になるように計画しました。また、建物とフィールドの段差をなくすことにより障害を持つ観客の方々のみならず、障害を持つ競技者も含めたより多くのユーザーに対する幅広対応できる施設であるものとした。

平面計画においては、エントランスホールを中心にシメトリクスを採用し、ロッカーームを両翼に配置して対戦競技におけるフィールド以外での接触を回避できるようにしました。また、建物全体を、半径400mを基準とした緩やかな曲線となる同心円を用いて構成し、フィールドに対しては観客の視線を少しずつセンターラインに集めるように、外周の園路に対しては圧迫感を取り除くように考慮しました。

設計のポイント

階高抑えフィールドと一体感

「相模の大風」をモチーフにして大風の「紙」をテフロン膜で、「骨」を鋼管で表し、「太い糸目」を横したボストを糸目を束ねるようにデザインすることともに、両翼は相模原から世界に向けて大きく羽ばたくアスリートたちの活躍を期待してのデザインとなりました。

第一競技場のスタンド全体としては、段階的整備となるためスタンドをメインスタンド、バックスタンド、北サイドスタンド、南サイドスタンドの4つに分割し、それぞれを兼ねたブリッジをつなげることで1つの施設となります。次期工事のバックスタンドおよび北サイドスタンドに設置される電光掲示板の竣工を待つて全体の完成をみることにいたします。

(相模原市設計協同組合
代表理事・西倉 努
担当・横山 尚樹)



位置図



スタンドからトラックとフィールドを望む



エントランス

施設・工事概要

- ▷ 工事名称—相模原麻溝公園競技場メインスタンド建設工事
- ▷ 建設地—神奈川県相模原市下溝41691ほか
- ▷ 施工—神奈川県相模原市
- ▷ 設計—相模原市設計協同組合

- ▷ 施工—藤木工務店・谷津建設JV(建築工事)、野崎電気・播州電気JV(電気設備)、朝日工業社・徳久工業JV(空調設備)、折本設備(給排水衛生設備)
- ▷ 建築面積—2,871平方m
- ▷ 延べ床面積—3,919平方m
- ▷ メインスタンド—RC一部S造4階建て、2,781席(日本陸上競技連盟公認第2種陸上競技場)

- ▷ トラック—全天候型ウレタン舗装 1周400m・9レーン
- ▷ フィールド—天然芝106×69m 7,314平方m
- ▷ 総収容人員—1万5,000人
- ▷ 駐車場—一般243台、大型バス10台、身障者用6台
- ▷ 工期—2007年9月28日—09年2月27日
- ▷ 総工費—約17億3,800万円



「相模の大風」をイメージした膜構造のスタンド屋根

施工のポイント

PC梁間をRCで繋ぐ

相模原市は、市民が気軽に利用できる健康づくり・体力づくりの拠点として、また、陸上競技を始めサッカー、ラグビー等の公式試合を行うことができる本格的な競技場を目指して「参加と感動のスポーツの森」を基本コンセプトに、相模原麻溝公園競技場の整備を進めてまいりました。

この競技場の整備は、従来の相模原麻溝公園を15.5倍拡大することを決めた1992年の都市計画決定に始まり、約15年の歳月を経て2007年4月、日本陸上競技連盟の第3種公認陸上競技場としてオープンいたしました。トラックは1周400m、9レーンの全天候型のウレタン舗装、フィールドはサッカーやラグビーの公式試合に対応する長さ106m、幅69mの天然芝の仕様になっております。このほど観客席数2,781席のメインスタンドが完成し、昨年度完成の芝生スタンドと併せ、約1万1,800人を収容できる第2種公認競技場として、09年4月、新たにスタートいたします。

今後は電光掲示板とバックスタンドの設置を予定しており、最終的には1万5,000人を収容できる競技場として完成いたします。また、その後も第2種競技場等を順次配置することなどによって、相模原市民70万人のスポーツ拠点として、また、広域的な競技施設として多くの方に利用いただけるように整備を進めてまいります。



両側からのスタンド全景